

第12回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成26年2月17日（月） 9：00－11：05

2. 場所：内閣府宇宙戦略室 会議室

3. 出席者

（1）委員

山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、木内委員、原委員、松尾委員、御正委員、薬師寺委員

（2）事務局

西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

（1）宇宙輸送システム部会の今後の検討の進め方について

事務局から資料1に基づいて説明し、資料1「宇宙輸送システム部会の今後の検討の進め方（案）」については、部会として了承された。

（2）宇宙輸送システム長期ビジョン素案の検討状況

白坂部会長代理から資料2、資料3、資料4に基づいて説明があった。説明を受けて、以下のような意見があった。

○現在の海外動向を踏まえると、長期ビジョン素案に盛り込まれたもののうち、幾つかは前倒しできるものもあるのではないかと考える。

○15年～20年前と比べて、どのような変化があったから再び将来宇宙輸送システムの開発を行うのか、明示することが必要。

○有人宇宙輸送は、無人と比べて求められる信頼性のレベルが違う。有人宇宙輸送については、もっと手厚い議論が必要ではないか。

○将来、国としてどのように宇宙を利用するのかということが見えにくい。

○将来宇宙輸送システムの実現に向けて、国として取り組む強い意思表示が必要。

○国民は科学技術を国力と認識。これまで平和的利用で培ってきた我が国の宇宙開発を国民は誇りに思っている。国民が誇りを持てるような夢のあるメッセージを含んだ長期ビジョンにすることが重要。

○我が国に不足しているのは、実験機、実証機の開発経験である。長期ビジョンの実現に向け、2010年代中に小型実験機の開発に着手すべき。

議論を踏まえ、長期ビジョン素案を修正することとされた。

木内委員及び原委員は、宇宙輸送システム長期ビジョン素案の検討状況に関する審

議の直後に退室した。

(3) 新たな基幹ロケットの検討状況について (JAXA から報告)

JAXA から資料5に基づいて説明があった。説明を受けて、以下のような意見があった。

○民間事業者により主体性を持たせた開発とするため、ミッション要求の策定にあたって、JAXA は民間事業者の知見を十分踏まえるべき。

○JAXA の開発管理ツールを民間とも共有し、効率的な開発管理に努めるべき。

JAXA による新型基幹ロケット開発に係る事業者の選定等を、資料5の通り進めてよいとされた。

(4) 新たな基幹ロケットの開発管理のあり方について

事務局及び文部科学省からそれぞれ資料6及び資料7に基づいて説明があった。説明を受けて、以下のような意見があった。

○人材育成の観点から、可能な範囲で中小企業や大学などの新しい人材を開発プロセスに関与させるよう努めるべき。

○資料6で示されているように、宇宙政策委員会は、文部科学省から報告を受けるとともに、JAXA や民間事業者からも必要に応じ、直接報告を受ける仕組みとすることが開発管理の上で重要。

資料6の「政府における新たな基幹ロケットの開発に係る評価体制について(案)」は、部会として了承された。

以 上